

各関係機関の長様
各病虫害防除推進員様

滋賀県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報第2号の送付について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

◇
いもち病の防除対策は確実に！

令和5年度 病虫害発生予察注意報第2号

令和5年(2023年)7月12日
滋 賀 県

病虫害名：イネいもち病（葉いもち、穂いもち）

1. 発生地域：県内全域
2. 発生時期：葉いもち 6月下旬以降
穂いもち 7月下旬以降
3. 発生量：多
4. 注意報発表の根拠
 - (1) 7月6日～11日に行った調査において、県内36地点180ほ場での葉いもちの発生ほ場率は32.2%（平年8.7%）、発病株率は4.2%（平年0.7%）と、ともに過去10年で最も高かった。
 - (2) アメダスデータを用いた葉いもち感染予測システム（BLASTAM）によると、6月以降断続的に感染好適日が出現している。特に、6月27日～7月2日に県内全域で連続して感染好適日が出現している（表）。
 - (3) 向こう1か月の気象予報（大阪管区气象台7月6日発表）では、降水量は平年並の見込みであるが、出穂期に曇雨天が続く場合は穂いもちが多発することが予想される。
5. 防除対策
 - (1) 葉いもちは、穂いもちの伝染源となるため、発生を認めたら直ちに薬剤を散布する。
 - (2) 穂いもちは、ほ場の状況（水稻の生育やいもち病の発生状況）をよく確認し、適期に防除する。
 - ・粉剤、液剤(水和剤・乳剤等)は穂ばらみ期～出穂期に散布する。
 - ・穂いもちの発生が多い時は、さらに穂揃期～乳熟期にも防除する。
 - ・粒剤は種類により施用時期が異なるため、ラベルをよく読んで適期に散布する。
 - (3) 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一グループの薬剤を連用しない。
 - (4) 薬剤は県農作物病虫害雑草防除基準を参照のこと。なお、薬剤の散布にあたっては、ラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。
6. その他
 - (1) 薬剤を散布する時は、周囲に飛散しないよう注意する。
 - (2) 粒剤を施用する場合、湛水状態にし、散布後1週間は、落水やかけ流しをしない。

表 BLASTAMによる感染好適日の判定結果

		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月1日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月3日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月4日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月5日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月6日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	水	○1	○4	-	○1	●	-	●	○4	○4
6月8日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	金	-	-	-	-	-	○1	-	?	-
6月10日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	日	●	-	-	●	●	○4	●	○1	-
6月12日	月	-	●	-	-	○4	-	-	-	-
6月13日	火	-	-	●	-	-	-	-	○4	●
6月14日	水	-	●	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	木	-	-	-	-	●	●	-	●	-
6月16日	金	-	-	○4	-	-	-	●	-	-
6月17日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月18日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月21日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	金	●	●	-	-	-	○4	-	-	-
6月24日	土	●	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月27日	火	●	●	●	●	●	-	?	-	-
6月28日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日	木	●	●	●	●	-	-	●	-	●
6月30日	金	-	-	●	●	●	●	-	-	-
7月1日	土	-	●	-	●	-	○2	-	●	-
7月2日	日	●	●	●	-	-	○2	○2	●	●
7月3日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月4日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月5日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月6日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	●
7月7日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	土	○3	-	-	○3	-	○3	○3	-	-
7月9日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月10日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月11日	火	-	-	○2	-	-	-	-	-	-

[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]

- : 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある。)
- 1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
- 2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
- 3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外)
- 4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- ?: 判定不能

お問い合わせ先：滋賀県病害虫防除所
 TEL:0748-46-4926 FAX:0748-46-5559
 Email:GC70@pref.shiga.lg.jp
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo>

農薬を扱うみなさまへ

農薬取締法や滋賀県では、農薬を販売する者・使用する者が守らなければならない事項、守っていただきたい事項を次のように定めています。このことを守り、農薬の適正な流通、安全・適正な使用に努めましょう。

下線部は、農薬取締法・関係法令で定められ、農薬を扱うものが守るべき事項です。

下線部を守らないと、**農薬取締法違反で罰せられる可能性があります。**

1. 販売に関すること

- ① 農薬登録番号等が適正に表示された農薬および特定農薬以外の農薬を販売しないこと。
- ② 販売禁止農薬を販売しないこと。
- ③ 農薬の効果等に関して、虚偽の宣伝をして販売しないこと。
- ④ 無登録の農薬について、農薬登録を受けていると誤認させるような宣伝をしないこと。
- ⑤ 販売者は、取り扱う全ての農薬について、種類別に仕入数量と譲渡数量（水質汚濁性農薬については譲渡先別譲渡数量）を帳簿に正確に記載し、3年間保存すること。
 - ・ 農薬の種類ごとに日別に記載し、在庫管理ができる帳簿にしてください。
 - ・ コンピューターで管理している場合は、過去の実績をプリントアウトしておいてください。
- ⑥ 農薬登録がされていない「農薬に該当しない除草剤」は、容器又は包装に農薬として使用できない旨を表示すること。
また、「農薬に該当しない除草剤」の販売者は、販売所ごとに公衆の見やすい場所に、「農薬に該当しない除草剤」を農薬として使用できない旨を表示すること。
- ⑦ 農薬は他の品目（特に食品）と混在して陳列しないでください。
- ⑧ 農薬は住居（生活空間）で保管しないでください。
- ⑨ 農薬はいつも目の届く場所に陳列してください。
- ⑩ 盗難防止対策をとってください。
- ⑪ 最終有効年月を過ぎた農薬は販売しないようにしましょう。
- ⑫ 毒物・劇物を販売している方は、毒物及び劇物取締法の規定を遵守してください。

2. 使用に関すること

- ① 農薬登録番号等が適正に表示された農薬および特定農薬以外の農薬を使用しないこと。
- ② 販売禁止農薬を使用しないこと。
- ③ 食用農作物等に農薬を使用するときは、次に掲げる基準を遵守すること。
 - ・ ラベルに記載されている農作物のみに当該農薬を使用すること。
 - ・ 使用量：面積当たりの規定量を超えて農薬散布をしない。
 - ・ 希釈倍率：規定された希釈倍率の最低限度を下回る希釈倍数での農薬散布をしない。
 - ・ 使用時期：規定された使用時期以外に農薬散布をしない。
 - ・ 各有効成分ごとの総使用回数を超えて使用しないこと。
（種苗を用いる場合は、種苗に表示のある有効成分ごとの農薬の使用回数を勘案する必要がある）
 - ・ 最終有効年月を過ぎた農薬を使用しないようにしてください。
- ④ 次に掲げる事項を帳簿に記載するようにしてください。
農薬を使用した年月日・場所・農作物等・農薬の種類又は名称・使用量・希釈倍数
- ⑤ ゴルフ場において農薬を使用しようとするときは、農薬使用計画書を農林水産大臣・環境大臣に提出すること。また、計画に変更がある場合も同様に、計画変更届を提出すること。
- ⑥ 農作物等・人畜・生活環境動植物に害を及ぼさないようにすること。
- ⑦ 農作物等および土壌、水質に汚染が生じ、かつ、その汚染が原因となって人畜に被害が生じないようにすること。
- ⑧ 農薬保管・使用にあたっては、飛散・流出・揮散しないようにしてください。
- ⑨ 農薬は鍵のかかるところで、食品等の他のものと区別して保管してください。
- ⑩ 毒物・劇物を扱う方は、毒物および劇物取締法の規定を遵守してください。